

3. 3 サブプロジェクト①の管理・運営

(1) 業務の内容

(a) 業務の目的

「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を開催し、サブプロジェクト①の総括的・効率的な運営を図る。また、研究成果の利活用や研究協力の推進のために、交流会等による国内外の研究者との議論や報告書等の作成を行う。

(b) 平成24年度業務目的

- 1) サブプロジェクト①の総括的・効率的な運営を図るため、代表研究機関である国立大学法人東京大学地震研究所の研究者及び分担研究機関並びに関連研究機関の研究者等が参加する「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を2回程度開催する。
- 2) MeSO-netにより得られたデータ等の活発な利用に向けて、交流会を開催して、広く国内外の研究者と議論する機会を設け、最新の研究動向を把握する。
- 3) 南関東の地震像の解明のため、サブプロジェクト①とカリフォルニアで得られた研究成果を比較検討し、国立大学法人東京大学地震研究所と学術協力協定を結ぶ南カリフォルニア地震センターと研究協力を進める。
- 4) 成果を活用促進し多くの人々へ向けて広報するために、報告書等の作成とホームページへの掲載を行う。
- 5) 統括委員会の事務局を担う。

(c) 担当者

所属機関	役職	氏名	メールアドレス
東京大学地震研究所	教授	平田 直	

(2) 平成24年度の成果

(a) 業務の要約

- 1) サブプロジェクト①の総括的・効率的な運営を図るため、代表研究機関である国立大学法人東京大学地震研究所の研究者及び分担研究機関並びに関連研究機関の研究者等が参加する「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を2回開催した。
- 2) MeSO-netにより得られたデータ等の活発な利用に向けて、交流会を開催して、広く国内外の研究者と議論する機会を設け、最新の研究動向を把握した。
- 3) 南関東の地震像の解明のため、サブプロジェクト①とカリフォルニアで得られた研究成果を比較検討し、国立大学法人東京大学地震研究所と学術協力協定を結ぶ南カリフォルニア地震センターと研究協力を進めた。
- 4) 成果を活用促進し多くの人々へ向けて広報するために、報告書等の作成とホームページへの掲載を行った。
- 5) 統括委員会の事務局を担った。

(b) 業務の成果

1) 首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会

平成 24 年 9 月 21 日と平成 25 年 2 月 4 日に「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を開催した。各サブテーマの代表者と有識者から構成される運営委員会委員とオブザーバが出席し、サブテーマごとに進捗状況と今後の見通しについて説明があった。これらの説明をもとに意見交換や総合的な議論を行い、プロジェクトを円滑に推進させた。

なお、運営委員会の議事録は、4.1 会議録に掲載した。

2) MeSO-net データの利用に関する交流会

首都圏地震観測網(MeSO-net)により得られたデータの活発な利用に向けて、平成 25 年 1 月 24 日に研究集会「首都圏地震観測網(MeSO-net)を使った地震活動・プレート構造の研究」を東京大学地震研究所会議室において開催した。参加者は 23 名であった。プログラムを表 1(P.206)に示す。この会では、MeSO-net で観測されたデータを用いて、関東平野の地盤特性評価、関東盆地の地下構造の高度化と長大構造物へ影響する長周期地震動の生成機構の解明、地震波干渉法による関東平野の地盤構造の推定、関東周辺の地震の震源過程解析などの成果について参加者それぞれから説明があり、議論を行った。また、MeSO-net の環境測定装置である温度圧力計のデータを用いて首都圏のヒートアイランド現象を解明する試みについても紹介があった。

3) 南カリフォルニア地震センターとの研究協力

サブテーマ「首都圏の過去の地震活動に基づく地震活動予測手法の確立」では、南カリフォルニア地震センターと協力して CSEP のソフトウェア導入や予測モデルの検証を行っている(3.1.4 参照)。また、国際ワークショップ(3.4 参照)のうち理学分野では、カリフォルニアで得られた最新の研究成果について南カリフォルニア地震センターから 10 講演、南関東に関する最新の研究成果について日本側から 14 講演が行われ、工学分野・人文社会科学分野も含めた幅広い議論を行った。

4) ホームページ等の作成

MeSO-net 観測について紹介した 4 ページの簡単なパンフレットを作成した。また、サブプロジェクト①の研究内容を紹介するホームページを作成し、公開した。ホームページの URL は、<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/toshi/>である。

5) 統括委員会事務局

統括委員会事務局として、「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を 2 回開催した。また、国際ワークショップを開催した。いずれも詳細については 3.4 を参照されたい。

(c) 結論ならびに今後の課題

「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を2回開催した。MeSO-net データ利用に関する交流会を開催した。南カリフォルニア地震センターとの研究協力を進めた。ホームページ等を作成し公開した。統括委員会事務局として、「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」と国際ワークショップを開催した。

(d) 引用文献

なし

(e) 学会等発表実績

学会等における口頭・ポスター発表

なし

学会誌・雑誌等における論文掲載

なし

マスコミ等における報道・掲載

なし

(f) 特許出願，ソフトウェア開発，仕様・標準等の策定

1) 特許出願

なし

2) ソフトウェア開発

なし

3) 仕様・標準等の策定

なし

(3) 平成25年度業務計画案

- 1) サブプロジェクト①の総括的・効率的な運営を図るため、代表研究機関である国立大学法人東京大学地震研究所の研究者及び分担研究機関並びに関連研究機関の研究者等が参加する「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を2回程度開催する。
- 2) MeSO-net により得られたデータ等の活発な利用に向けて、交流会を開催して、広く国内外の研究者と議論する機会を設け、最新の研究動向を把握する。
- 3) 南関東の地震像の解明のため、サブプロジェクト①とカリフォルニアで得られた研究成果を比較検討し、国立大学法人東京大学地震研究所と学術協力協定を結ぶ南カリフォルニア地震センターと研究協力を進める。

- 4) 成果を活用促進し多くの人々へ向けて広報するために、報告書等の作成とホームページへの掲載を行う。
- 5) 統括委員会の事務局を担う。

表 1 「首都圏地震観測網(MeSO-net)を使った地震活動・プレート構造の研究」プログラム

13:00-13:05	挨拶・趣旨説明（温地研・本多）
13:05-13:20	MeSO-net の現状と都市災害プロジェクトについて °平田直（地震研）
13:20-13:40	首都圏の減衰構造 °パナヨトプロスヤニス・平田直（地震研）、笠原敬司（振興会）
13:40-14:00	地震波干渉法による首都圏の地震基盤構造の推定 °吉本和生（横浜市大）、平田直（地震研）、笠原敬司（振興会）、小原一成・佐藤比呂志・酒井慎一・鶴岡弘・中川茂樹（地震研）、木村尚紀・棚田俊收（防災科研）、宮岡一樹（温地研）、中原恒（東北大）
14:00-14:20	首都圏下の岩石モデル構築に向けて 石川正弘（横浜国立大）、°佐藤比呂志（地震研）
14:30-14:50	神奈川県西部の地震活動 °行竹洋平・原田昌武・本多亮（温地研）
14:50-15:10	首都圏の繰り返し地震活動 °木村尚紀（防災科研）
15:10-15:30	関東で発生した大地震の解明にむけて °石辺岳男・佐竹健治（地震研）
15:30-15:50	首都圏の地震発生予測モデルの構築に向けてー2次元から3次元へー °横井佐代子（地震研）、楠城一嘉、鶴岡弘・平田直（地震研）
16:00-16:20	MeSO-net を用いたバックプロジェクション法による中規模地震の破壊過程の解析 西澤航・°村越匠（防衛大学校）
16:20-16:40	MeSO-net 観測記録に基づく関東平野の3次元地下構造モデルの改訂と地震動シミュレーション °吉田治雄・小林喜久二・佐藤吉之・梅田尚子（竹中工務店技術研究所）、酒井慎一・平田直（地震研）
16:40-17:00	深部地震の記録を用いた応答スペクトルの相対的な地盤増幅率 °池田孝・加藤研一・森川淳・元木健太郎（小堀鐸二研究所）
17:00-17:20	MeSO-net 気圧観測データと広域METROS気温観測データの連繋による首都圏ヒートアイランド解明の試み °三上岳彦（帝京大）、高橋日出男（首都大）、森島済（日大）
17:20-17:40	3.11 時の MeSO-net 記録と超高層建物の揺れ °永野正行・肥田剛典（東京理科大）
17:40-18:00	議論と総括